

# 活動報告書

報告者氏名：田端 允

所属： 宮崎県立延岡しろやま支援学校 記録日：2014年 2月 10日

## 【対象児（群）の情報】

○学年 小学部 2年生

○障害名 知的障害を伴う自閉症

## ○障害と困難の内容

- ・衝動性の強さや状況を適切に把握する力の弱さから授業への参加が困難なことがある。家庭では、道路への飛び出し等もあり常時見守りが必要である。
- ・友達や教師にかかわる際に相手に強く抱きついてしまったり、頭を押さえたりといったかかわり方をすることが多くそのことが原因で周囲と衝突してしまうことがある。
- ・色や上下、左右、同一などの基礎的な概念の形成ができていないためにその様な概念を含んだ指示や説明をうまく理解できない。

## 【活動目的】

### ○当初のねらい

上記の内容について本人と保護者が特に困り感が強かったので家庭と一緒に取り組むことを目指して以下のねらいを設定した。

- ①屋外で安全に活動することができる。
- ②適切なコミュニケーション手段を獲得する。
- ③基礎的な概念を理解する。

○実施期間 平成 25 年 4 月～

○実施者 田端 允

○実施者と対象児の関係 学級担任

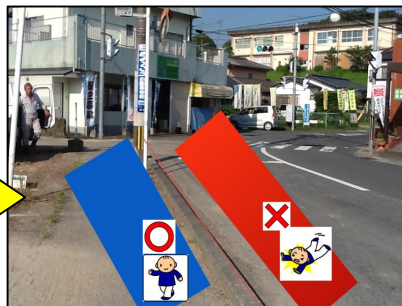
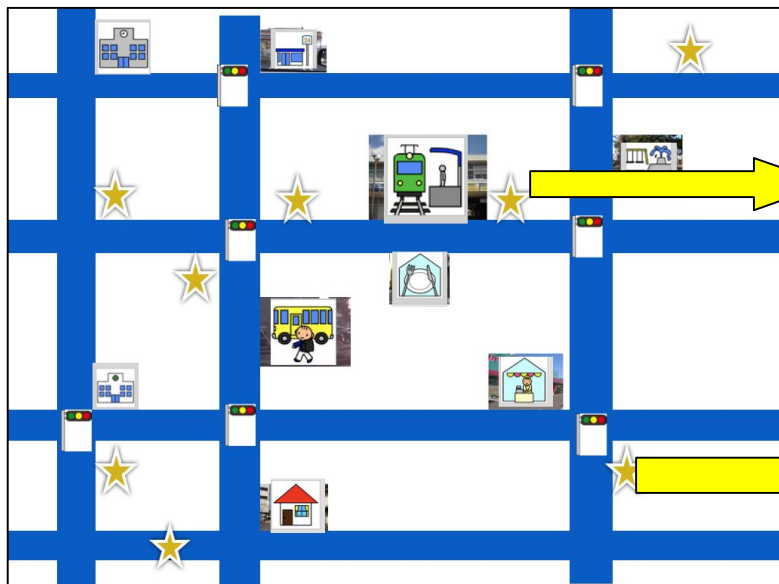
## 【活動内容と対象児（群）の変化】

### ○対象児（群）の事前の状況

- ・校外を歩く際に車道に寄りすぎたり、自動販売機など注意を引く物に向かって衝動的に走ったりすることがあった。そのような行動から校外では手をつないで歩く必要があったが、本児は人に触れられることに強い抵抗感があり、なかなか手をつなぐことも困難な状況であった。
- ・人への興味関心が強く自分が好きな大人や子どもを見かけると走って近づき、強く抱きしめてしまったり頭を押さえつけてしまったりすることがあった。そのことが原因で周囲とトラブルになることもあった。
- ・4月にNCプログラムや太田ステージによるアセスメントを実施したところ認知や行動の手掛かりになる色や左右、前後、上下、同一といった基礎的な概念の形成ができていないことがわかった。またそのことが原因で指示理解ができずに主体的に活動に参加できない場面も多いように思われた。

### ○活動の具体的内容

- ①屋外で安全に活動ができることを目指して（大分県立宇佐支援学校 高野先生の平成 22 年度最終報告を参照）
  - ・「Keynote」アプリや「カメラ」アプリを使って、本人が歩く場所を視覚的に示す教材を作成し、実際に公園やお店まで安全に歩く練習を行った。
  - ・本人の家の周りの道路についても「Keynote」アプリや「カメラ」アプリを使って、『歩き方マップ』や『危険箇所マップ』を作り家庭で活用してもらった。



【危険箇所マップ】マップ（左写真）の☆印は危険箇所を示しており、☆印に触れると右写真のように危険な場面や安全な歩き方が表示される。※プライバシー保護のために実際のマップとは異なる。

## ②適切なコミュニケーション手段の獲得を目指して

- ・「カメラ」アプリで適切なコミュニケーションをしている本児の動画を撮影した。その後「Keynote」アプリで加工し、『じょうずなあいさつ』として観せた。
- ・友達と関わる際に「名前を呼ぶ」、「握手をする」、「あいさつをする」等の適切な関わり方ができている時にはシールを貼らせた。シールが20枚たまると本人の好きな活動（ダンボールを加工して家や電話を作る活動）を取り入れ意欲付けを図った。
- ・家庭でも同様の支援ができるように、『じょうずなあいさつ』の動画を観たり、シールを貼ったりする活動を行ってもらった。



【じょうずなあいさつ】適切な関わり方を示したプレゼンテーション動画。

## ③基礎的な概念の形成を目指して

- ・「ベビーバス」、「いろ」、「色の遊びHD」、「見つけられるかな?」、「ミアのプレイランド」等の遊びながら取り組むことができるアプリを使って色の一致、大小理解や分類等の基本的な概念の形成を図った。家庭でも宿題の一つとして取り組んだ。

## ○対象児の事後の変化

- ①屋外で安全に活動ができることを目指して（大分県立宇佐支援学校 高野先生の平成22年度最終報告を参照）
  - ・4月に校内での練習を2週間ほど行った後に校外での実践を行った。校外での実践は5月から週に1回程度継続して行った。家庭での活用は夏休みから開始した。校外での活用では、自分で何度もiPadを確



【歩き方を確認している場面】

認しながら歩く様子が見られた。家庭でも『歩き方マップ』や『危険個所マップ』を効果的に活用することができた。現在も見守りは必要だが、車道への飛び出し等危険な行動はほとんど見られなくなった。

②適切なコミュニケーション手段の獲得を目指して

- ・本児の適切なコミュニケーションを撮影した動画『じょうずなあいさつ』をととても喜んで観ていた。画面を見ながら「〇〇くん（自分の名前）まるよ～」と言いながら嬉しそうであった。家庭でも取り組むことでより意欲が高まり適応行動が増えた。結果として不適応行動が減っている。



【友達と上手にかかわっている場面】

③基礎的な概念の形成を目指して

- ・4月当初は自立活動の時間に教師との1対1でのやり取りの中で具体物を使いながら学習をしていたが、教師側が否定的な関わり方になってしまったり児童の集中がつかなくなったりすることがあった。遊びの要素の多いアプリを活用することで楽しみながら取り組むことができた。そのことで体験的な活動と言葉を関連付けながら指導することもスムーズにできた。また遊びの要素が多いため家でも余暇の中で使用することができている。色名については4色一致するようになった。大小理解や分類もできるようになっている。

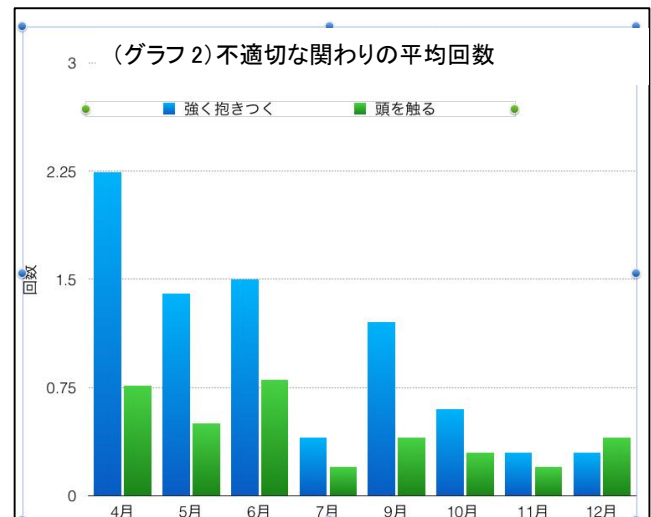
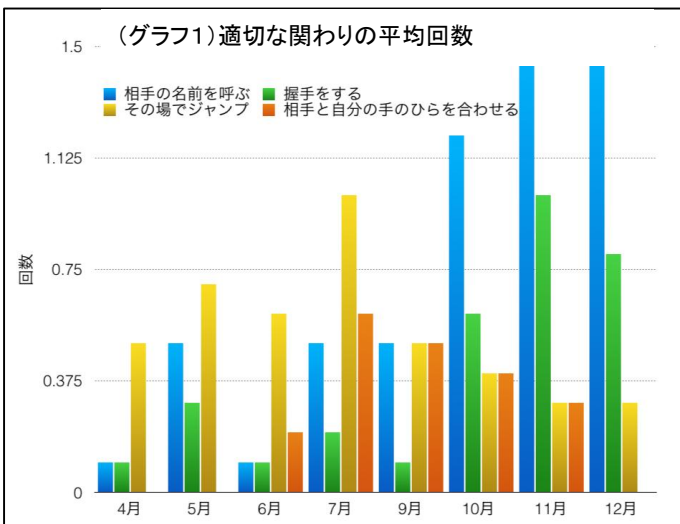
【報告者の気づきとエビデンス】

①屋外で安全に活動ができることを目指して（大分県立宇佐支援学校 高野先生の22年度最終報告を参照）

- ・歩いていい場所とそうでない場所を **Keynote** で視覚的に示すことで効果的に情報が得られ理解しやすいようであった。繰り返し取り組むことで初めての場所であっても安全に歩くことができています。また、母親は「これ（iPad）があれば安心して外に行ける」と言ってくれている。今後も継続して取り組み本時の生活の質を向上させていきたい。

②適切なコミュニケーション手段の獲得を目指して

- ・グラフ1は不適応行動の平均回数を示したものである。グラフ2は適切な関わり方の平均回数を示したものである。いずれも一日の中で不適応行動が多い朝の同じ時間に記録をとったものである。実践を重ねるにつれて適応行動が増え、不適応行動が減っている。また、適応行動の中でも「相手の名前を呼ぶ」や「握手をする」といったより相手が受け入れやすい行動に移行している。



③基礎的な概念の形成を目指して

- ・表1は対象児のNCプログラムによるアセスメント結果である。実践前と実践後でNCプログラムをとった結果、大小理解や色名（4色）、分類等の項目で成果が見られた。

(表1) NCプログラム発達記録チャート(2013年4月、7月)  は4月にできた部分。  は4月以降でできるようになった部分。

は4月にできた部分。  は4月以降できるようになった部分。

領域	年齢		0:5~1:0		1:0~2:0		2:0~3:0		3:0~4:0		4:0~5:0			
1. 視覚操作	1 下をさがす	2 入れる	3 型はめ	4 物のマッピング	5 絵のマッピング	6 色のマッピング	7 積み木の橋	8 2片パズル	9 8型マッピング	10 6片パズル	11 迷路	12 ビーズ並べ		
言語	2. 理解	1 バイバイ	2 指さし	3 指示理解	4 身体部位	5 5名詞理解	6 動詞理解	7 大小理解	8 比較概念	9 身体部位(10)	10 カテゴリー	11△ 用途理解	12△ 形容詞理解	13 前後左右
	3. 表出	1 音声模倣	2 身振り模倣	3 要求	4 4名詞表出	5△ 動詞表出	6 2語文表出	7 色名(4)	8 反対後類推	9 色名(10)	10 語頭音	11 文章説明		
記銘	4. 視覚	1 下をさがす	2 1/2の記憶	3 1/3の記憶	4 1容量a	5 1容量b	6 2容量	7 3×3の記憶	8 3容量a	9 3容量b				
	5. 聴覚	1 音声模倣	2 単語模倣	3 1容量a	4 1容量b	5 2語文復唱	6 2容量	7 3数詞復唱	8 3容量	9 3語文理解				
文字	6. 読字	1 絵への興味	2 絵の理解	3 物のマッピング	4 絵のマッピング	5△ 3型マッピング	6 自分の名前が分かる	7 8型マッピング	8 音節理解	9 文字マッピング	10 10文字読む			
	7. 書字	1 点画	2 なぐり描き	3 ぐるぐる描き	4 縦線・横線	5△ 模写(円)	6 2点結び	7 ぬる(クレヨン)	8 模写(十字/V字/正方形)	9 模写(三角形)	10 なぞる	11 模写(10文字)		
8. 数	1 下をさがす	2△ もう一つ	3 たくさん	4 分類	5 多少理解	6 1対1対応	7 数概念3	8 数概念6	9 数唱20					
運動	9. 微細	1 出す	2 入れる	3 つまむ	4 逆さにする	5 積み木(6個)	6 ビーズ通し	7 折る(1回)	8 切る(1回)	9 切る(直線)	10 貼る	11 切る(形)	12 切る(曲線)	13 ぬる(色鉛筆)
	10. 粗大	1 座る	2 立つ	3 歩く	4 転がす	5 とぶ	6 投げる	7 ける	8 前転	9 両手受け	10△ 両足とび	11△ 平均台	12 片足とび	

### 【今後の見通し】

3つの実践の結果から、本児は動画や画像等を効果的に活用することで様々な課題を解決し、生活を豊かにできることが分かった。ただ、現在は、教師や保護者がそういった教材をiPadを使って作成し本児と一緒に活用している段階である。今後は、児童の教師や保護者への依存度を徐々に減らし、自分から生活を豊かにできるようなiPadの活用の仕方を模索していきたい。